



学校建設(ネパール)

ネパールでも学校建設推進中

2010年度の事業計画に、カンボジアのほかにも教育支援の必要性があるネパールで学校建設の可能性を調査するという方針が掲げられましたが、この方針に基づき、まず2010年2月から3月にかけてネパール国ジャバ郡で学校建設の必要性について調査を行いました。

その報告に基づきネパールに学校を建設する方針を理事会で決定し、9月20日から月末まで小山内代表等3人が現地を訪問し、ジャバ郡にあるバヌー学校とラストリアビジャ学校を支援校とすることを決定しました。

ネパールでは幼稚園より中学や高校まで同じ学校に通うシステムになっています。バヌー学校は幼稚園から11年生(日本では高校2年生ぐらい)までの865人が通う学校です。周辺の学校が小学校までしか受け入れる事が出来ない為、6年生(中学1年生ぐらい)から11年生は同校に通ってきます。そのため、6年生以上のクラスは全学年とも100名を超えています。1クラスの定員が40人のため、これらの学年は2クラスに分けていますが、それでも定員オーバーであり、4人掛けの椅子を6-7人で使用し、すし詰めの教室で授業を受けていました。既存校舎は5棟ありますが、規模の大きな6室と7室の校舎は屋根が壊れ、雨漏りを起こしていたり、壁に大きな亀裂が入っているなど、安全に授業を受けられる校舎ではありませんでした。他方PTAや学校運営委員会を組織し、授業のモニタリングやセキュリティなど積極的に協力していました。

カンボジアでの学校調査と同様に、①校舎の現状、②地域の協力体制、③学校の管理体制、④周辺の学校の状況の4点を中心に検討した結果、事前調査で候補にあがっていた7校を含め同校のプライオリティーが最も高いという結論に達しました。またラストリアビジャ学校では幼稚園生たちが萱作りの建物の中でごごにすわり授業を受けていました。寒さが厳しい冬にとっても授業を受けられる状態ではなく、園児のために2教室を建設することになりました。

ネパール人であり、古くから小山内代表の知人でもあるラジーブカナル氏が協力を申し出てくれており、同氏を通して現在建設図面決定の最終段階にきています。バヌー学校は将来2階建てにすることを前提としたコンクリートの屋根の4教室。ラストリアビジャ学校は将来増設の必要性はないのでブリキ屋根の2教室を2011年度中に完成させる予定です。



教室の定員を超えた子どもたちが勉強している



バヌー学校外観



ラストリアビジャ学校



教育支援(音楽)

(1)音楽授業実施状況の調査

2010年5月から8月にかけて、音楽授業実施調査のためプロジェクト対象校の小中高等学校148校、小・中学校教員養成学校11校を訪問しました。

(2)楽器・教材配付

学校調査にて楽器の保管状況、楽器数を調べ、各学校にピアノ50台、小太鼓1個、その他打楽器1~5個ずつが行き渡るよう、楽器の追加配布をしました。鍵盤ハーモニカの数に対して、使用する子供達の数が多いため、ホースの部分に穴が空いていたり、汚れていたり、ホースが無くなってしまっているケースが多いようでした。当会でもホースに関して対応策を考えていましたが、既に各学校でガス用ホース等で対応する等工夫が見られました。

また、本年度はクメール曲生徒用歌集と外国曲生徒用歌集の増刷をしました。

(3)現職教員対象トレーニング(初級)

学校調査の際に学校長、音楽教員にインタビューする中で、音楽授業普及事業の問題点が多く見つかったため、本年度は実施しませんでした。

音楽教員は、各学校で音楽授業を実施したくても、学校長や他教員、地域住民の理解が得られず、なかなか実施できずにいることや、特にブノンペン市内に関しては小学校教員の異動が多く、音楽授業を継続する事ができないということが分かりました。当会の事業内容や活動の実施方法、音楽教員への支援方法に関して再度検討し、改めて新規トレーニングを実施します。

(4)合唱普及活動

本年度は、2008年度から2年間実施した合唱指導の成果を見るために、専門家の山田三千夫氏(元JICA専門家)に音楽コンテスト地方予選の審査員として参加して頂きました。子供達の合唱や演奏を聞いた山田氏からは、徐々に子ども達の合唱の質が上がっており、今までの音楽教育事業の成果が見られるとの感想をいただきました。



プレアシアヌーク県アヌワット小学校音楽授業の様子

(5)現職教育対象音楽フォローアップ

対象地域となる8地域(ブノンペン市とカンダール県は合同)の小中学校の音楽教員、小中教員養成学校教員対象のフォローアップトレーニングを各地域3日間実施しました。全地域で143名の教員、教育局スタッフが参加し、音楽知識の理解を深めたり、楽器の演奏法を学んだりしました。

毎年実施している音楽フォローアップでは、1月から3月まで各地域で開催される音楽コンテストの課題曲を中心に指導しています。教員は各学校でしっかりと指導できるよう、楽譜やリズム等を学びました。また、本年度は音楽教員の音楽基礎知識のレベルについて知るために、楽典や楽器演奏に関する50問(1問1点)のテストを行いました。全地域の平均点が40点以上であり、音楽教員が音楽の基礎知識を確実に習得していることがうかがえました。

本年度は、トレーニング内容が音楽コンテストの課題曲の指導のみに終始してしまいました。来年度からは、音楽教員の指導能力を高めるための内容を盛り込んでいくことを課題としていきます。